

ルーヴル美術館展

京都市美術館



「美光色」と「Space Player®」の採用で
上質な照明空間を創出。

京都市美術館では、2015年9月27日まで「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画に見るヨーロッパ絵画の真髄」を開催。17世紀のオランダの巨匠・フェルメールの《天文学者》が初来日したのをはじめ、ルーヴル美術館が所蔵する名画、約80点を通して、多様な展開をとげてきた風俗画の歴史を紹介している。

今回の全作品の照明には、美光色の「個別調光機能付LEDスポットライトワンコア（ひと粒）集光タイプ※1」（電球色3,000K）を採用。LEDは紫外線・赤外線をほとんど含まず、作品の変色・退色、紙の劣化といった影響が少ない。さらに、美光色スポットライトはRa95という高い演色性で絵画の色をより忠実に再現。赤色だけでなく、ハロゲン電球下では沈みがちに見える青色や緑色も自然に際立たせた。

会場出入口にはスポットライト型プロジェクター「Space Player（スペース プレーヤー）」を設置して京都市美術館初となる照明と映像を融合した演出を行った。スペース プレーヤーはスポットライトの配線ダクトに設置でき、照射方向を自在に設定可能※2。これにより自由度の高い照明演出が実現する。これらの照明器具は会場全体の上質な空間創出に貢献した。

※1 ワンコア（集積型）LEDにより従来LED特有の多重影を解消
※2 照射角度は、水平より下向き全方向に対応



後藤 結美子氏
ごとうゆみこ
京都市美術館
学芸課

《天文学者》の暗い色彩の部分でさえ、描かれた物の素材の違いが分かるほどに見え驚いています。補色関係を利用して強烈な印象を残す《徴税吏たち》の赤色や緑色も、より鮮やかに再現されました。

美術展は来館者が夢を持って訪れる場所。その特別な空間に展覧会を象徴するメッセージを掲げるため、照明と映像投影機能を持つスペース プレーヤーを使用したのは非常に効果的だったと思います。



1. 全作品の照明にRa95の美光色LEDスポットライトを使用
2. 最適な照明で忠実に再現され、本来の色彩が際立つ絵画
3. 会場入口にはスペース プレーヤーで映像を投影
4. ルーヴル美術館のメッセージも印象的にアピール
5. 京都市美術館